

解 説

附属高等学校

タイトル：さくらサイエンスハイスクールプログラムを活用した国際性の育成 ―科学の力で未来を共創する女性リーダーの育成に向けて―

顧問：沼畑早苗 教諭

解説タイトル：

行動する学び手を育てる国際交流 ―他者理解力の育成をめざして

コンピテンシー育成開発研究所
特任講師 Claudia Gherghel

本報告書では、JST（科学技術振興機構）の「さくらサイエンスハイスクールプログラム」に基づき、アジアや南米の高校生を附属高等学校に招へいし、日本文化や科学技術への理解を深めるとともに、相互交流を通じて次世代のグローバル人材の育成を目指す国際交流プログラムの成果が紹介されている。このプログラムは、生徒が他者との関わりの中で自らの役割を見出し、異文化の他者と向き合う経験を通して、他者理解力というコンピテンシーを実践的に育む貴重な学びの機会となった。

他者理解力とは、異なる価値観や文化的背景をもつ他者の立場や視点を理解し、共感的に関わる力である。近年の社会では、多様な他者と対話しながら共に生きる力がますます求められている。今回の国際交流では、生徒たちは歓迎セレモニーの運営、英語での司会、海外生徒との文化体験、多面的な場面で主体的に関わりながら、言語・文化の壁を越えた実践的な交流を重ねた。

報告書には、宗教的な配慮が必要な食文化の違い、言葉の壁などに戸惑いながらも、そうした違いを尊重し、柔軟に対応しようとする生徒たちの姿が記されている。中には、言葉が通じなくても、互いに伝えようとする姿勢があれば気持ちは伝わる、との気づきを得た生徒もあり、他者との関わりの中で、文化の違いを理解するだけでなく、関係性を築こうとする姿勢そのものが育っていることがうかがえる。また、授業や昼食を通して海外生徒と信頼関係を築いた生徒が、その後もオンラインで交流を続けている様子からは、学びが実生活に根づいていることも読み取れる。

このように、本プログラムは国際理解教育の枠を超え、生徒が実際に他者と出会い、異なる文化的背景を尊重しながら共に活動することで、他者理解力を実践的に育む場となっている。自己と他者の違いを知り、その違いを乗り越えようとする営みの中に、教育的に価値ある学びが確かに存在している。